

1.研修プログラムの名称

内視鏡センター研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

内視鏡センターは、上部・下部消化管内視鏡および気管支鏡を行なっている。

内視鏡センター専属医師のみではなく、消化器内科、消化器外科、呼吸器外科医師と共に協力し検査および治療を進めている。

（年間検査件数：上部消化管内視鏡 6500 件 下部消化管内視鏡 3500 件）

<検査>

特殊検査としては超音波内視鏡、拡大内視鏡を施行しており診断率の向上を目指している。

一方で経鼻的上部消化管内視鏡等により、検査時の苦痛軽減にも努めている。

<治療>

また内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）をはじめとした腫瘍性病変に対する治療、緊急対応として出血性病変に対する止血術、異物誤飲に異物除去術等を行なっている。

3.到達目標

上部・下部消化管疾患の診断をすることが目標となる。具体的には

- 1) 食道・胃・大腸癌を中心とした内視鏡診断をするために必要な上部・下部消化管の正常解剖、色素内視鏡検査、拡大内視鏡検査および超音波内視鏡検査の適応、さらに各種内視鏡的治療の適応・選択法などを理解する。
- 2) 食道・胃および大腸の模型を使い内視鏡検査手技を習得する。
- 3) 指導医とともに、検査に入り、生検、ポリペクトミーなどの手技を補助として行う。

小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻）を診察し治療に参加できる

4.指導体制・方略

基本的には、1ヶ月間を通じ、指導医とともに行動する。検査を行った症例の内視鏡診断を研修する。2週間に1回の病理とのカンファレンスにて、胃癌を中心とした内視鏡所見と病理所見を比較検討する。

内視鏡検査・治療に関する周術期管理ならびにスコープ洗浄・消毒に看護師、内視鏡検査技師（臨床検査技師）、麻酔科、感染症科などとの連携に関するチーム医療を行っている。

5.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午前	上部消化管検査					
午後	下部消化管検査・内視鏡的治療					

6.カンファレンス

・
・

7.研修活動

学会、研究会への参加、希望により発表の指導を行う。他施設との研修活動を行う。

8.評価

- 1) 研修医自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

PG-EPOC を用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

PG-EPOC を用いて評価する

研修事後レポートより評価する

3) コメディカルによる評価

PG-EPOC 又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

PG-EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

9.その他特記事項

学会、研究会への参加、希望により発表の指導を行う。

将来的に消化器内科を目指す向学の志をもつ者にとり、一助となればと思い指導している。

10.研修中に作成する病歴要約

（**赤字**必ず作成する、**太字**可能なかぎり作成する、他 対象疾患を診察したら作成する）

経験すべき症候

ショック、体重減少・るい瘦、発熱、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、**下血・血便、嘔気・嘔吐**

腹痛、便通異常(下痢・便秘)、**熱傷・外傷**

経験すべき疾病・病態

急性胃腸炎、胃癌、**消化器性潰瘍、大腸癌**